



ごあいさつ

常務執行役員 野村 昭二
Nomura Shoji

日頃より、当社製品・サービスをご愛顧賜り、心より厚く御礼申し上げます。

近年、地球温暖化に起因すると考えられる異常気象の多発を機に、脱炭素化の取組みがさらに活発化され、再生可能エネルギーでの発電計画が拡大されています。しかしながら、風力発電などの建設コストが増加しており、その結果、発電開始時期の遅れや中止が発生しています。一方で、電力需要は、電力を多く消費するデータセンターや半導体工場の建設や増設に伴い、増加が見込まれる状況となっています。そのような中で、2025年2月には第7次エネルギー基本計画として、再生可能エネルギーの最大電源化（2040年度の電源割合4～5割程度）の目標が示され、同時に「GX（グリーントランスフォーメーション）2040ビジョン」と「地球温暖化対策計画」も閣議決定されるなど、取り巻く事業環境の変化が大きく、脱炭素電源の重要性はさらに高まってきています。

このような事業環境の中、当社は2025年度を2021年度からスタートした中期経営計画「VISION2025」の最終年度と位置付けています。「日新一新^(*)」「変化への適応・変化の創造」の方針の下、「①環境配慮製品の拡大、②分散型エネルギー対応、③再生可能エネルギー対応、④DXの製品・事業への適用、⑤新興国環境対応需要の捕捉、⑥EV拡大に伴う事業拡大」の6つの成長戦略で活動してきた成果を次のビジョンに繋げていく重要な年でもあります。

電力・環境システム事業分野では、「カーボンニュートラル」に向けた取組みを加速しており、再生可能エネルギーの拡大や電力需要の変化に対応した電力インフラの需給調整市場、地域マイクログリッドでの電力安定化や電力レジリエンス強化に向けた製品開発・ソフト技術開発を積極的に行っています。また、下水道市場向けにカーボンニュートラルを目指した製品の開発も行い、インフラの安定化に貢献しています。

ビーム・プラズマ事業分野では、電子線照射装置など顧客ニーズに対応した各種製品をラインアップしています。さらに、社会基盤を支える多種多様な半導体などの製造に欠かせない装置の開発において有害物質の排除や省エネ化を進めることで、環境負荷の低い装置の創出に取り組んでいます。特に、需要が急速に拡大することが期待されるSiC（炭化ケイ素）パワー半導体用イオン注入装置については、デバイス性能の向上と製造技術の進歩を目指しています。

装置部品ソリューション事業分野では、積極的な設備投資によりASEAN地域を中心に高難度で品質の高い部品製造を行い顧客から好評を得ています。

本号では、特集「エネルギーソリューション」に加え、一般論文では、高精度のチャネリング注入を実現できる技術「パワーデバイスのためのチャネリングイオン注入技術」を掲載しております。是非ともご高覧賜り、ご意見・ご指導を頂戴できれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、ステークホルダー各位のますますのご繁栄をお祈りし、巻頭の挨拶とさせていただきます。

(*)「日新一新」は日新電機株式の登録商標です。